

圧倒的な画法で『三国志』の魅力を最大限に引き出した
葛飾戴斗・画の傑作〔江戸期版本全75冊〕+活字本を完全デジタル化
日本の『三国志』ブームの原点を
見て、読んで、楽しむ体感型電子書籍

大空社デジタル資料叢書【USB版】

絵本通俗三国志

えほんつうぞくさんごくし

赤壁の戦い ↓

孔明、風に折る ↓



← 桃園の義 * 人物は左より、周瑜、仲達、曹操／張飛、劉備、関羽／諸葛孔明、司馬炎

**ビビッドに展開する迫真の名場面
踊る主人公たち
勇壮なドラマを、江戸の感動で新たに堪能する！**

三顧の礼 ↓

泣いて馬糧を斬る ↓



大空社

日本人の『三国志』ここにあり！
葛飾戴斗・画の傑作、江戸期版本全75冊+活字本を完全デジタル化

大空社デジタル資料叢書【USB版】

絵本通俗三国志

いけだとうりてい 池田東籬亭 校正・
かつしかたいと 葛飾戴斗 画図

**江戸期版本の魅力をそのまま満喫！
見る読む楽しむを
デジタルで立体的に再現し
江戸の感動を堪能する！**

■収録内容・形式・機能

- 以下の①～④をPDF形式で収録
- 画像は見開き2頁を1コマ、原寸で収録
- ①『絵本通俗三国志』全8編75冊(天保7-12年刊、[大阪]河内屋茂兵衛板)約2530丁、各編の書袋付き、各編1ファイル(計8ファイル)、約2530コマ、高精細カラー画像
- ②『絵本通俗三国志』挿絵集＝戴斗の挿絵のみを閲覧しやすいように、①の全挿絵頁を1ファイルにまとめたもの、約380コマ、高精細カラー画像
- ③有朋堂文庫『通俗三国志』全3巻(塚本哲三編、有朋堂書店、昭和2年刊)約1080コマ(モノクロ画像)
- ④総目録(上記①の総目次、各章見出しに読み仮名を付し、テキスト検索可能。総目録から江戸期版本、挿絵、活字本を自在に対比できる)

■推奨の必備機関・研究分野等

- 『三国志』や浮世絵の研究者・愛好家
- 図書館、資料館、美術館等
- 近世絵画・美術史(浮世絵・日本画・北斎研究等)
- 出版史・書誌学(絵本研究等)
- 浮世絵構図など建築・情報科学等の研究者
- グラフィックデザイナー、漫画家、イラストレーター

■ご利用にあたって

本製品の内容・データは著作権法によって保護されており、無断で複製することはできません。公共図書館・学校など利用施設での無償貸出を許可します。本製品を使用した著作物には出典を明記してください。



大空社デジタル資料叢書【USB版】

絵本通俗三国志

池田東籬亭 校正／葛飾戴斗 画図
制作・発行 大空社

ISBN978-4-283-01237-0 C3893 ¥60000E

価格60,000円(税別)

* 分割払い可。詳細はお問い合わせ下さい。



■製品イメージ(形状・色調は変わる場合があります)

【仕様】

- USB 1本(58×19×9mm、約10g)
- ・収納データ容量 約5GB
- ・対応OS * 他のOS利用不可
Windows XP(SP2以上)、Vista、7(63/64bit)
- * 本USBは閲覧専用です。収納データ(ファイル)の
改変・書き込み・削除はできません。
- * 収納PDFから印刷(ハードコピー)は可能です。
- おしゃれなブック型収納ケース
保管・携帯に便利な化粧箱(92×70×30mm)入り

■発行

学術図書出版 **大空社**
〒114-0032 東京都北区中十条4-3-2
TEL : 03-6454-3400
FAX : 03-6454-3433
URL : www.ozorasha.co.jp
E-mail : eigyo@ozorasha.co.jp

■お取扱い

「三国志」の魅力新たに！ 湖 南 文 山 翻 訳 池 田 東 籬 亭 校 正 江戸期版本の迫力を体感！

デジタルだから実現できる立体機能 江戸の感動を再現、満喫！

北斎と見まがわれ「犬北斎」と絶賛された、戴斗二世

作者の葛飾戴斗(2世)は但馬豊岡藩士で、初め江戸上野山下に住し、のち麹町平河町に移った。後に葛飾北斎の門人となり、文化(1804-18)年中、戴斗の号を北斎から7兩で譲り受けた。画風は師とよく似ており、篆書に長じ、絵本・挿絵本が多い。門人に葛飾戴岳・葛飾北涯らがいる。(著作)陰陽文絵鈔 画(文政3刊) 英雄図会 画(文政7刊) 絵本通俗三国志 画(天保7-12) など (以上、岩波書店『国書人名辞典』参照)

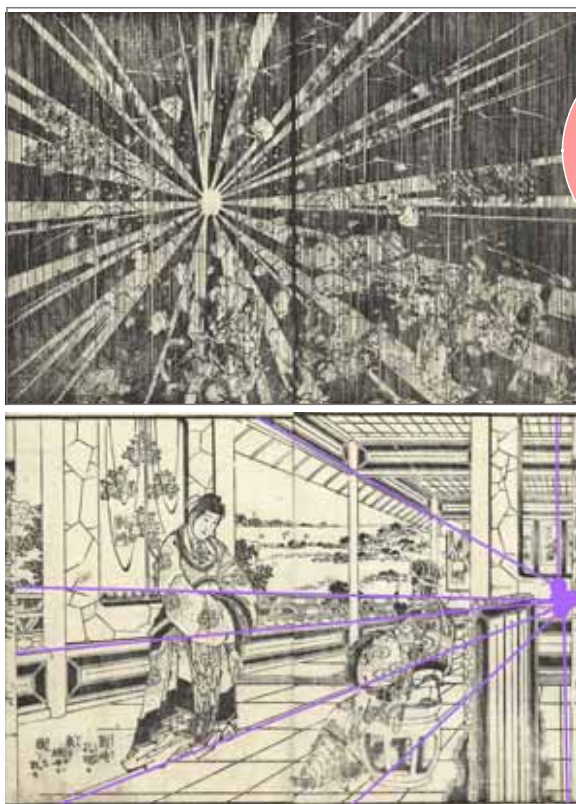
慶応4年(1868)編『新增補浮世絵類考』に「画風、師の筆法を能く学び得たり。真偽やもすれば見まがふ計(ばかり)也。世に犬北斎といふ」とある。画法は北斎と極めて酷似したが、一面では、上下遠近法や線遠近法を北斎よりも早く取り入れ、奥行きのある構図を巧みに描いたり、陰影法を用いた器物描写など斬新な画法に取り組み、大胆で迫力のある挿絵で他の絵本を圧倒した。

日本での『三国志(演義)』の普及は、元禄期に京都天竜寺の僧・湖南文山(こなんぶんざん)が翻訳した『通俗三国志』に始まる。以来、草双紙や絵本、浮世絵、歌舞伎等で広まったが、『絵本通俗三国志』の画期的なビジュアル化によって「三国志」ブームに火が付いた。

日本人が親しんできた「三国志」。日本人の「三国志」ここにあり！

『絵本通俗三国志』がもととした『通俗三国志』は、『三国志演義』(羅漢中著)を原典とした翻訳だったが、「演義」の流れは現代に脈々と続いている。『三国志』と聞いて日本人の脳裏にまず浮かぶのは吉川英治の小説『三国志』であろう。その「吉川三国志」も、「演義」に読み入り、三国時代の英雄の生涯を自家築籠中のものとしたところから生まれた。すなわち、日本人が親しんできた『三国志』は『三国志演義』の流れを汲む。

その『三国志』の最初の旋風(ブーム)を巻き起こしたのが、この葛飾戴斗の『絵本通俗三国志』だった。まさに一世を風靡し、日本の「三国志」史上に燦然と輝く記念碑的ベストセラーである。江戸から現代までの日本文化・日本人の心性を再認識するに、これほど恰好の作品はない。「三国志」研究者・図書館のみに限らず、ファン・マニア・美術家など必見の傑作である。



楽しむ

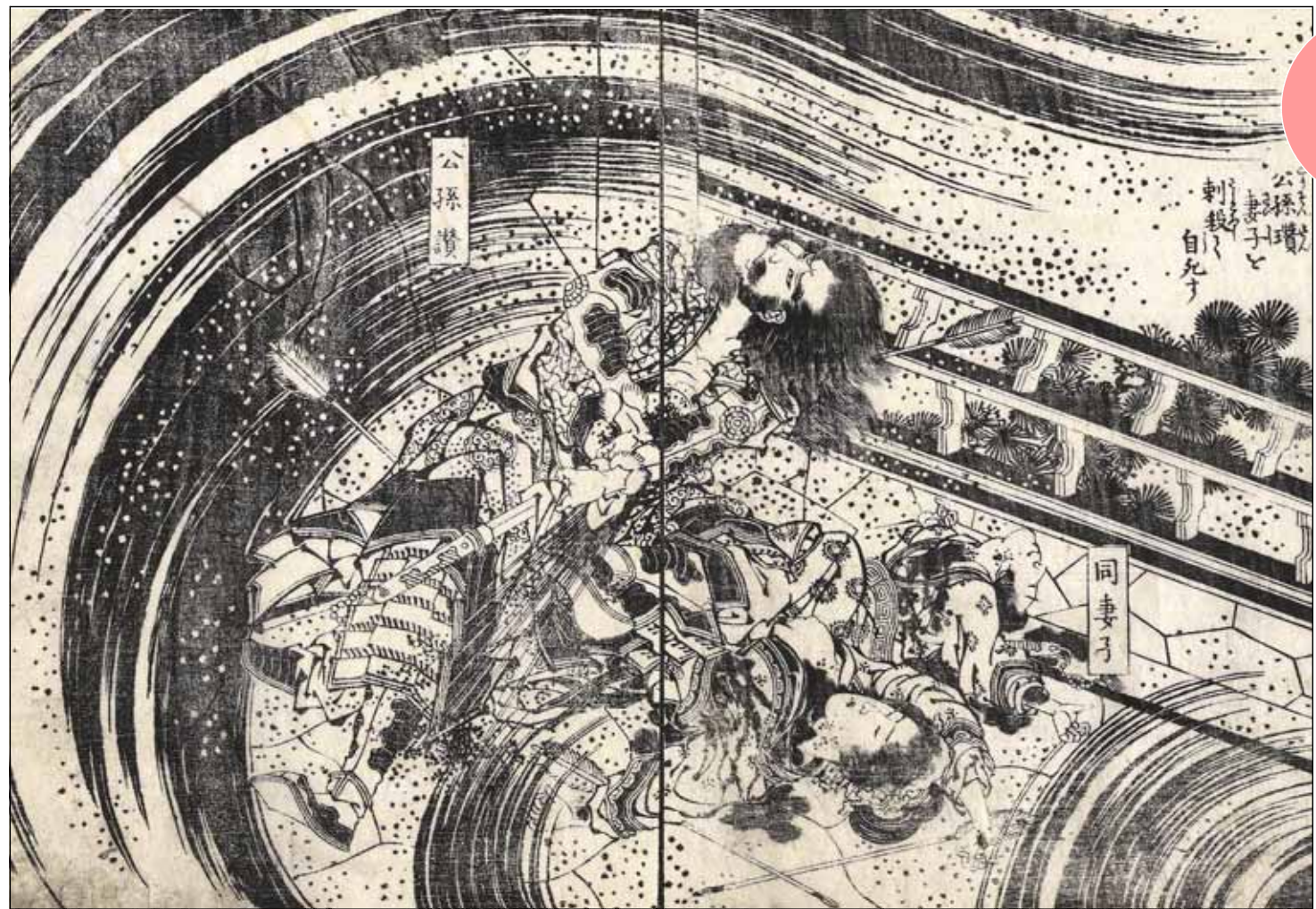
研究に楽しみに、新しい観点をつねに生む 不朽の素材集

本書の圧巻は何といっても戴斗の描いた挿絵。近年、版画、浮世絵はもとより、さまざまな領域から、デジタル解析手法を駆使した画像研究が進んでいる。

挿絵だけを1ファイルにした「挿絵集」が恰好の研究ツールとなる。

- 上図は、現代のマンガ・アニメを連想させるユニークな図柄。
- 下図は、空間での平行線が1点に集まる西洋の透視図法とは異なり、焦点が分散する浮世絵独特の遠近法になっている。

二編六巻「青梅(せいばい)酒を煮て英雄を論ず」挿絵
公孫瓚、逃るべき路なく、妻子を刺し殺し、その身も自害して滅びぬ。



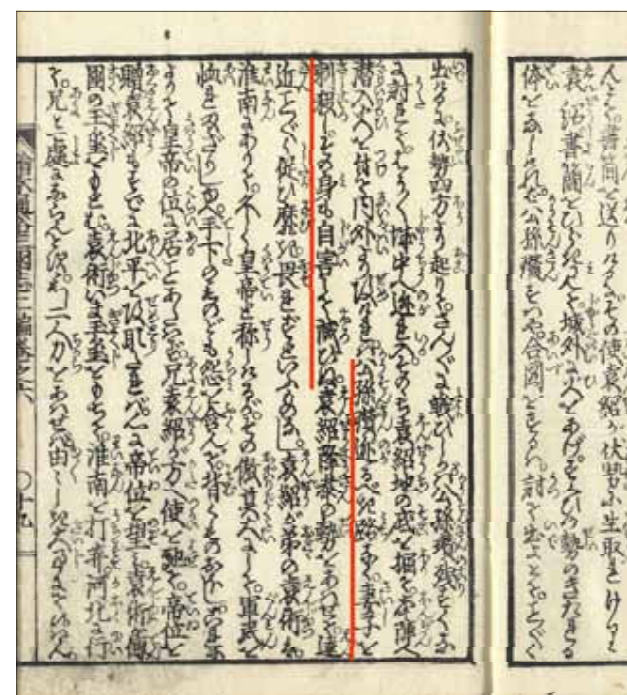
見る

大胆な構図・精緻な描写の傑作挿絵が高精細カラー画像で眼前に展開。初めて手にとり開いた江戸の人々の感動がリアルに伝わってくる。

読む



本文を活字でも読めるように、定評ある校訂で普及した有朋堂文庫版『通俗三国志』全3巻と対読できるようにした。



墨の色、連綿、文字、紙のしわ、和本の手触り・雰囲気も伝わってくる高画質な江戸期版本の本文。

※対読の例=赤罫の右側が同じ文となります。

◎江戸期版本が読める！



原本全冊書影

「三国志」の魅力を最大限に引き出した傑作『絵本通俗三国志』

池田東籬亭(とうりてい)校正、葛飾戴斗(たい)2世画。天保7-12年(1836-41)刊、全8編75冊。書袋もほぼ半分が刊行当時のオリジナルのもので貴重。